

2021年

新年のご

野木町長 真瀬 宏子

新年のごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。皆様にはお健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。また日頃より町政運営には多大なご理解とご協力を賜りまして心より御礼申し上げます。

町では今年も、よりよい町づくりのために「安全安心策」「少子高齢化対策」「町の活性化策」の3重点施策を進めてまいります。

まず町の安全安心策では思川右岸の防災拠点整備、左岸側の築堤計画を推進し水害から町民の生命財産を守ることを全力で進めます。

また、引き続き、新型コロナウイルス感染症抑止のための全町的な協力体制で強力で予防措置を進めます。それには町民お一人お一人のご協力が最も重要と考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。このコロナ禍の中でも医療、介護等、最前線で携わってくださっている皆様、我々の日常生活を常に陰で支え続けて下さっている皆様方には、特に感謝とともに御礼申し上げます。またコロナ自粛等でご苦労が続く事業所、店舗等の皆様、町の応援策が少しでも役立てば幸いです。

いずれにしてもコロナ禍では、みんなで少しずつ我慢、自粛しつつ「新しい生活様式」を活路に、リモート、オンライン等を取り入れた生活に変化させていくことも大切になってくると思います。

少子高齢化対策ではさらに「子育てしやすい暮らしやすい町」を推進してまいります。

「子供は町の宝」として18歳までの医療費無料化は変わりませんが、児童・生徒一人に1台のタブレット配布を実現し、新学習体制

を確立していきます。また高齢者が暮らしやすい町づくりを基本に進めてまいりますので、ご活躍の場を広げ、社会参加を心掛けて頂ければと思います。第2、第3の人生にも輝きを持たせるためにも去年オープンした総合サポートセンター「ひまわり館」もご利用いただければと思います。

次に町の活性化策ですが、なんとといっても「ひまわりの里」として今年ひまわりフェスティバルを開催出来たらと思います。また産業振興では町内誘致企業の操業開始支援やプレミアム商品券事業等により一層の活性化を図ります。農業では中谷地区土地改良事業を着実に進めて持続可能な農業の基盤整備に努めます。

また一方では自発的な町民活動を促進して、町民の皆様との協働により事業を進める事で、持続可能な町づくりの実現に向かいます。町では「持続可能な町づくり」のためにSDGsの理念を基本に進んでまいります。

野木町は明治以来、一度も他と合併をしたことなく、自力で歩んできた町です。この基本の歩みの上で、コロナ禍が続くとしても、尚一層、明るく元気な一年にしていきたいと思えます。そしてこんな時だからこそ、お互いの支え合い、思いやりを大切にしたいと思います。「ひまわりの里」に相応しく、太陽を目指して、希望に満ちた明るい年となりますように、共に歩んでまいります!!皆様の想いを実現するために職員一同頑張りますので、よろしくご指導の程をお願い申し上げます。

今年一年が皆様にとりまして素晴らしい年となりますよう心よりお祈り申し上げます、新年のあいさついたします。

(令和三年)

あいさつ

野木町議会議長 黒川 広

新春を迎えるにあたり、町民の皆様のご多幸とご健勝をお祈り申し上げますとともに、日頃より町政の発展と議会運営に対しまして温かいご支援とご協力をいただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

令和元年5月に議長を拝命し、1年半程が過ぎましたが、地方自治の真価が問われている現在、議長としての重責を改めて感じるとともに、課題解決に向け、鋭意努力してまいりてまいります。

また、野木町議会議員一同、町政発展のため引き続き努力してまいりたいと決意を新たにしております。

さて、昨年を振り返りますと、新型コロナウイルスの感染拡大により、経済・社会へ深刻な影響がもたらされました。感染拡大を防ぐための外出自粛により、我が町の飲食店等でも強い向かい風を受け、営業自粛や経営の落ち込みなどの苦境に立たされた事業者の方々も多く、経営維持に大変ご苦労されていることと思います。また、「新しい生活様式」の推進などにより、町民の皆様の意識や価値観も変化を余儀なくされたのではないかと考えています。

この影響により、持続可能な社会の構築が必要であることを学び、ポストコロナの時代に向け、デジタルを活用した新たな日常の確立と経済再生・地域の活性化の実現や少子高齢化・多様な働き方に対応した社会保障制度等の構築に向けた改革が求められていると感じております。

現在、我が町においては、第8次野木町総合計画後期計画の策定を行っており、持続可能な町とするためにSDGsの考えに沿った

堅実な計画、そして、町民の皆様との協働作業で創り上げるまちづくりが基本となるような計画が進められているところであります。

施策の計画・執行には、より慎重な精査と説明・調整が必要であり、町議会といたしましても、町民への議決責任・説明責任を果たすために、しっかりと討議・提言していくことが重要であると考えております。

また、財政面においては、野木第二工業団地内の全ての区画へ企業進出が完了し、今後は税収のアップや地域雇用環境の改善が期待されます。しかし、今後想定される各種公共施設・公共設備の更新や高齢化に伴う扶助費の増加を考え合わせると、財政状況は決して余裕があるものとは思えません。野木町の将来を考える上で、町議会も執行機関と共に、一層の効率的な予算執行の意識を持つことが求められます。

新型コロナウイルス感染症の影響により、かつてない時代の転換期を迎えた今、町議会としても、ますます多様化する社会・経済情勢を的確に把握し、議員一人ひとりが町民の皆様とのニーズをしっかりと受けとめ、真に必要な効果的な施策を見極めることで、二元代表制の一翼を担う機関としての責務を果たし、皆様と一体となった住みよいまちづくり、持続可能なまちづくりに邁進したいと考えております。

今後ともさらなるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、町民の皆様が笑顔で暮らせる素晴らしい年になりますよう心よりご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。